タウンミーティング議事録

1 日 時

令和元年9月15日（日）午後1時30分から3時30分まで

2 場 所

南流山センター 大ホール

3 流山市出席者

(1) 特別職

井崎市長、後田教育長、志村上下水道事業管理者

(2) 部 局 長

須郷総合政策部長、渡邊総務部長、安井財政部長、
伊藤市民生活部長、早川健康福祉部長、秋元子ども家庭部長、
恩田経済振興部長、田中環境部長、武田都市計画部長、
石野都市整備部長、石井土木部長、菊池教育総務部長、
前川学校教育部長、北野消防長

(3) 事 務 局（秘書広報課）

（秘書広報課）

中野課長、三好係長、中村主事、竹中主事、須賀主事

（企画政策課）

浅水次長、伊藤課長補佐、山崎主査

4 来場者数

68名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 参加者

この流山という地に住み続けるためには水害対策が重要ではないかと考えています。

8月30日の千葉日報を見ていましたら、南流山で調整池を活用して小学校を建設するという記事が出ていました。喫緊の課題ということは理解していますが、一方では水害対策をどのように進めていくのか教えてください。

A 市（上下水道事業管理者）

南流山の全体的な水害対策については、10年以上前は神明堀の流域において浸水が発生していたため、神明堀の改修に加えて上流側に3万2,000トンの調整池（東谷調整池）を確保しました。このため、現在では神明堀流域の床下・床上浸水はほとんど発生していません。

今回、新しい学校の候補地としている調整池については、神明堀の右岸、江戸川寄りの区域に降った雨を溜めるための調整池であり、区画整理地の雨水が神明堀に流れる前に一時溜めておく水害対策のためのものです。さらに、江戸川には200年に一度の水害を防ぐ堤防が築造されています。

現在は想定外の水害が発生していますが、このような事情から南流山地区の浸水対策は進んでいると考えています。

現在、調整池の上に小学校を建設する検討を進めていますが、調整池の機能はきちんと維持することを前提に考えており、皆さまがご不安にならないようしっかり調査をしたいと考えています。

Q 参加者

今後も近隣住民の意見を取り入れる場を設けてください。調整池の上に小学校を建設することで、現在の水害対策が無意味にならないようお願いします。

また、松戸市の学校はまだかなり余裕があると聞いていますので、近隣自治体との連携も含めて最適なものを検討していただきたいです。

Q 参加者

南流山は神明堀の上流に調整池があるから安心という話は少し違うと思います。木地区の区画整理地に降った雨を溜めるために右岸と左岸の調整池があり、市民の安全や防災が守られているのであって、本来、調整池の活用と小学校の建設とは両立できないと思います。

子どもを育てる小学校を調整池の上に建てるという話は矛盾にしか聞こえませんが。実際にどのような対策が採られて、どのように子どもたちが守られるのか、とても心配しています。

南流山は元々水害に弱いと聞いています。市は安心のために調整池を造っているのに（その上に小学校を建設することは）矛盾する行動ではないかと思いました。市は、南流山の防災や水害に対して、どこまで真剣に考えているのですか。

A 市（教育総務部長）

調整池の機能はしっかりと残した上で学校の建設を行い、どちらも両立した形で整備したいと考えます。現在、調査に必要な補正予算を市議会に諮っていますが、今のご提案も踏まえて学校建設の安全性について、しっかりと調査したいと思います。

神明堀の上流の調整池、下流の木の調整池の機能は維持した上で、その上に学校を建設できるかどうか調査に入ることです。調整池を埋め立てて調整機能を失わせるわけではありません。

Q 参加者

以前、自治会の役員が説明を受けた際に言ったのですが、2015年の関東・東北豪雨災害の際に鬼怒川が決壊したとき、調整池の水面から2メートルの位置まで水が溜まっており不安でした。

そのときは2日間の雨で済んで良かったのですが、先日の九州の災害や、その前の広島の前日本豪雨災害では4日間は降り続けました。（調整池は）それに耐え得るのでしょうか。江戸川が決壊する前に調整池が溢れる可能性もあります。どのような対策を採ればいいのでしょうか。

調整池は実は河川の一部であり、いわゆるダムの一部です。そのダムの上に建物を建てるということは目視ができなくなり、自主防災と

して、かなり支障が出てしまいます。貯水池の機能は残すとのことですが、それだけで守られるのでしょうか。

この件は厳格に対応いただきたいし、私たちと話す機会も設けていただきたいです。

A 市（上下水道事業管理者）

調整池が目視できなければカメラ等により状況が把握できるような対策を採ります。

また、神明堀は坂川に流れ込みます。坂川の排水場には毎秒100トンの水を捌けるポンプが付いていますから、そういう面での浸水対策はできています。調整池も河川も200年に一度などという想定外の豪雨の場合は溢れる可能性はありますが、50年に一度の雨に対しては対策が為されています。

愛知県には調整池の上に校舎を建設した事例があり、工法としては難しいものではありません。しっかりと調査を行い、安全を確認した上で進めていきますので、ご安心いただければと思います。

本日は総合計画に関するタウンミーティングですので、学校建設については、今後教育委員会と皆さまと意見交換をする場を持ちたいと思います。

この調整池について、あるいは南流山、木地区についての防災についても意見交換する場を設けたいと思います。

Q 参加者

流山市には福祉避難所がありますが、その中に情報保証の機能はありますか。字幕や手話通訳などがあるとありがたいです。

次に、耳の不自由な人は地震の揺れはわかりますが、洪水の状況はわかりません。洪水の情報を伝達する方法を考えていただきたいです。

さらに、9月1日の総合防災訓練では、流山市デフ協会も参加して避難所運営について勉強させていただきました。今後も防災に関して何か情報がありましたら教えていただけるとありがたいです。

A 市（健康福祉部長）

視覚・聴覚障害のある方が避難所にいらしたときの対応については

持ち帰ってきちんと考えたいと思います。

ご存知のとおり福祉避難所は平和台のケアセンターに1カ所ありますが、万が一のときは市内の介護施設、高齢者施設、特別養護老人ホームなどを福祉避難所として開設していただくという協定を結んでいます。そのようなところが今は市内に14カ所ほどありますが、それを聴覚障害の方々に伝えていく方法、そして、ご指摘いただいたように福祉避難所にいらっしゃるときの対応については、福祉関係・防災関係の部署で連携して防災計画や実績として出していきたいと思います。

情報保証についても、緊急時の対応として整理が足りないところがありますので、今後しっかりとやっていきたいと考えます。

Q 参加者

流山の今までの10年間の総括はどうなっていますか。

次に、総合計画には予算の話が全然ありませんが、これらの計画にどれだけのお金がかかるのか説明が必要だと思います。

次に、市長を4期もしているとだんだん前年踏襲の考えになります。新しい総合計画にはPDCAサイクルの推進を入れてもらいたいと思います。

次に、学校の件でも皆さん水害が起きたら困ると言っていますが、現に千葉県では9月11日に大きな災害が起きています。過去に前例がないというわけにはいかないなので、もっと網羅してください。

次に、鱒ヶ崎の駅前の貯水場のポンプシステムを調べたところ、今から5年か6年前に造ったのですが、当時は1年間に80ミリから100ミリではなく、50ミリの対応しかできないとのことでした。もっと真剣に考えていただきたいと切に思います。

最後に、私は障害者で人工透析をしています。今回の市原のような災害が起こったら、流山では水や電源が確保されていないと透析ができません。大きな病院の誘致を計画に入れてもらいたいです。

A 市（総合政策部長）

現計画の評価・総括については、パブリックコメントの中に流山総合計画の基本構想、基本計画説明書というものがあり、そちらにおい

て評価・総括をしていますので、ご覧いただければと思います。

PDCA サイクルについては、次期の総合計画においても当然、その重要性は感じていますので、計画の進行管理につきましては PDCA をしっかりやっていきたいと思っています。

今回の計画に予算が無いというご指摘については、実は計画を作るにあたり庁内で様々な議論を行いました。

現行の基本計画においては定量的な予算の見通しというものを作りましたが、評価・総括の中で検証したところ、10年前の計画当時と実際の予算との間に、年を追うごとに乖離が起きていたという状況がありました。理由としては10年前には予測できなかった社会経済状況や地方財政制度の変化などがあり、計画段階であまり確定していない金額をお出しすると、市民の皆さまに様々なご心配をおかけすることもあるかと考えています。

これに対しては、実施計画を3年ごとに策定して、毎年、ローリングで見直しを行う計画になっています。短期間であればより正確な財政の見通しを立てられますので、基本計画を策定した後に令和2年度の当初予算と整合させた3年間の実施計画を策定し、その中でしっかりした財政の見通しをお示ししたいと考えています。

A 市（市民生活部長）

現在、市内には備蓄倉庫が33カ所あり、そこに発電機を39基配備しています。今回の房総半島における停電等の状況を踏まえまして、今後、発電機等の配備計画を進めていきたいと考えています。

現在、小児科と産科を中心とした誘致に向けて動いていますが、大きな病院の誘致は比較的ハードルが高く、庁内の大きな検討課題であると思っています。ご意見は頂戴させていただきます。

Q 参加者

流山に住んでから五十数年が経ちますが、緑が無くなってきて寂しいです。

休耕地の畑や田んぼを生かして観光地化するような工夫があれば、もっと多くの人々が流山の農業や緑に関心を持ってくれると思っていますが、そのような計画やビジョンはありますか。

A 市（経済振興部長）

休耕地の活用については、既に市民農園などの形で活用している場所などがあります。このような活用が大切だということは認識した上で、これからの計画において進めていきたいと考えています。

また、商業・工業・農業と観光の部署に横串を通し、うまく連携させて人を呼び込むための施策を作っていくことが大切であり、計画の中でもこのような意識を持って事業を進めていきたいと考えています。

Q 参加者

今、いくつかの部署に横串を通すという話がありましたが、それは新しい体制や部署を作るのですか。今までどおり、それぞれの部署の方が対応されるのですか。例えばマーケティング課など、流山市の特有のやり方があると思うので、お考えがあるなら教えていただきたいと思います。

A 市（経済振興部長）

流山市では、商業、農業、観光の3つの部署が1つの部になっていますので、意識しながらそれぞれを結び付けるという形で、ひとつひとつ取り組みを進めています。例えば、観光のお客さんが来たときに地元の農作物のお店に出てもらおうなどの連携が多いです。

また、流山市にはマーケティング課という他市には無いスタンスの部署があり市のイメージ戦略を進めています。部が異なるからといって別々に動いているわけではなく BEER 電車や花火大会など様々なイベントにおいて連携し「市役所は一つ」という形で動いています。

Q 参加者

今回の基本計画においても何となく脚光を浴びている地域がありますが、意識が当たっていない地域を置いてけぼりにしない計画を立てていただきたいと思います。

A 市（総合政策部長）

今回の基本構想、基本計画につきましては、決して地域を限定して

いるということではございません。市内でも全市的なものとして捉えており、全市的に取り組んでいきたいと思っています。

Q 参加者

今、都市公園、緑地の業務委託を各自治体とかそれぞれの組織に委託してやっています。これには仕様1と2があり、ゴミを1カ月に1回拾うと25円ですが、草を刈ると50円なんです。どこの公園に行っても非常に草がぼうぼうで、木は落ちるし、枝は落ちるの状況です。黙っていたらいつになってもやらず、申請してやっとならぬか来ないか。このような組織はよくないです。

ゴミ拾いは1カ月に1回やっても仕方がないので自治体に任せて、市役所では草を刈る人をもう少し増やしてください。市役所は業者のしていることをよく確認してください。一度でも現場に行き、していなければ行わせるべきです。

A 市（司会）

今回は総合計画のテーマですので、個別の案件については後ほど担当より回答させていただきます。

Q 参加者

九州の状況などを見ていると、市の水害対策は今のままで本当にいいのかと思います。江戸川は大丈夫、200年に一度の対策ができているという話がありましたが、市内に降った雨は江戸川に行く前に市内に積もり、そこには子どもがいますので非常に心配です。

南流山の中央公園付近では床上浸水は起こりませんでした。道路に水があふれたため、危険を察して自家用車を高い所に移すといった検討も行いました。より末端を見たような計画を立てるべきなのではないかと思います。

また、貯水池の上に学校を作る前例はあるという話ですが、貯水池の上が本当に子どもの安心を担う場所なのか非常に心配です。

さらに、市全体を考えると人口が増えているのは木地区やおおたかの森地区だと思いますが、建物（小学校の建設）ありきで話が進んでいるように感じています。学区の編成や学習の内容など、総合的な検

討は為されているのでしょうか。この話は市全体の教育の問題として捉え、スクールバスを整備したり隣の市に越境するなど広く考えていただきたいです。住んでいていい街だなと思っていたのに、こういう話が出てくると非常に失望してしまいます。

人口が増えたことに対して全く対策や計画が追いついていないとこれから来る人たちも非常に不満にもなりますし、不安にもなりますので、是非しっかりと計画を考え、案が出た段階で説明の場を設けてください。私たちの意見をしっかりと聞いてください。今のままでは、「やりますよ」「納得してください」「はいそうですか」と、意見を求められているように感じません。

A 市（上下水道事業管理者）

南流山地区は、区画整理地内を含め下水道の浸水対策と1時間に50ミリの雨対策が為されています。

1時間に50ミリまでの対策までは国の補助金がつきますが、現在では想定外の70ミリ、80ミリという雨が次々と降っています。国の基準の見直しがありましたら市も更なる浸水対策を行えますが、現在のところ50ミリの雨までは浸水対策を行うという考えです。

学校教育法には『市町村は、その区域内にある学齢児童を就学させるに必要な小中学校を設置しなければならない』と規定されており、法律上、流山市の学校は流山市が責任を持って設置する必要があります。

南流山の小学校の建設地については、当該地域には調整池以外に広い土地が無い場合、調整池を建設候補地として考えているところです。ただし、学校を建設する以上は市民の安心安全を担保する必要がありますので、きちんと調査を行うほか、教育の面も含めて総合的に判断して計画していきたいと考えています。

また、学校の建設が見えた段階で皆さまにご説明させていただきたいと考えています。

水害の話をお伺いしていると、計画の段階では想定内であったことが実際には想定外になるというような状況が起こる例があります。

また、小学校の建設も本当に建設できる状況なのかを含めて調査しますので、調査結果を踏まえた上で住民の皆さまと意見交換を行うほ

か、確実な情報提供も行わなければならないと思っています。

流山市では、北部地域以外は学校の教室に余裕がありません。

ここ12、3年の間に人口が約2割増加したことと合計特殊出生率が約4割増加したことにより、お子さまの数が非常に増えています。このような状況により、今回の小学校建設の検討を行うことになった次第です。

Q 参加者

私には4歳と2歳の孫がおり別々の保育所に通っています。上の子は娘が通勤の途中に送り迎えできるのですが、下の子の保育所は駅から20分以上歩いた所にあり、家から車で15分かけて通っています。うちの場合は私たちが下の子の送り迎えができますが、夫婦だけのご家庭であれば大変です。2歳の子は駅前保育ステーションも活用できません。

おおたかの森の地域には幾つも保育園がありますが、北部地域の公立保育所はどこもいっぱい、特に0歳児、1歳児が入れません。来年も申請しましたが、どうやら別々の保育所に預けなければならない状況で、私たちは孫育てから卒業できず、楽しい旅行ができません。

先程の説明に保育環境の整備という項目がありましたが、具体的にどこの保育所を増やすのですか。これは3年間の実施計画の中で盛り込まれるのかと思いますが、北部地域は空き（家）が増えていますので、全年齢じゃなくても1歳とか2歳とか空きのない子どもだけ2、3人預かれるような保育所を整備していただきたいです。

市議会のご答弁でも「保育所に入れない子どもは少ない」という話ですが、実は私たちのような、通いたい地域に通えていない潜在的な待機児童がたくさんいます。是非そういう実態も調べていただいて、計画に盛り込んでいただくなど、どのようにお考えか聞かせてください。

A 市（子ども家庭部長）

ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

保育所の整備につきましては「子どもを育む計画」の中で、これから先10年間、どのような地域にどのくらい保育所をつくるかという

計画を作成しています。それぞれの地域の実情を推測し、人口増や、お子さまの数の増加の状況を見て、保育所整備の計画を策定してまいります。この計画につきましても、今後、パブリックコメント等を行っていきますので、またご意見をいただければ大変ありがたいと思っています。

Q 参加者

その「子どもを育む計画」はいつ頃できて、どのように公表されるのでしょうか。

A 市（子ども家庭部長）

現在の予定では12月頃に計画の素案という形でパブリックコメントを実施したいと思っています。実際の計画は、来年度の4月からスタートする形となっています。

Q 参加者

調整池の場所は学校を建設するには結構狭いと思います。また池の上ですのでコンクリートを多く使う建物を建てられるだけの地盤が備わっているのでしょうか。

そこに学校を建てるのがもう決まっているように聞こえます。地盤調査の結果、建設が無理となった場合の代案的なものが含まれていないように感じられるのですが、どのようにお考えですか。

A 市（教育総務部長）

調整池は約1.5ヘクタールあり、鱈ヶ崎小学校より少し大きい面積がありますので、問題ないと考えています。

また、調整池の場所は元から池だったわけではなく、地盤としてはかなり硬い所に人工的に穴を掘った経緯があり、軟弱地盤ということはありませんので、安心していただければと思います。

地盤調査については、総合的には問題ないと認識をしていますが、しっかりと専門的に調査を行い確認した上で建設に着手したいと考えています。実際に建設することになりましたら、再度、説明会を行い、ご意見を伺いながら進めていきたいと考えています。

なお、当初、今の南流山小学校を建て増しすることも検討しましたが、児童数2,000人以上、60クラスという巨大な学校になってしまい十分な教育ができないと判断しました。

Q 参加者

先程「流山に住んでいる子どもが通う学校は流山市内で用意しなきゃいけない」という話がありましたが、それは絶対に他の選択肢がないという前提なのではないでしょうか。例えば、隣の市に教室が空いているような学校があったとしたら、行政機関として国や他の市に働きかけることによって、このような前提を変えていくことはできないのでしょうか。

また、小学生は当然中学校に進学していくわけですが、中学校の設備は十分に足りているのでしょうか。今度は南流山に人が集まっているので、小学校だけではなくその先のことを考えた計画というものを考えれば、先程の代替案を行政が進めていくことも考えられるのではないかと思います。

A 市（教育総務部長）

先程来ご説明していますように、調査をしっかりと行った上で、安全性を確保し、その上で進めていくということで考えています。全てにおいて、安全が前提ということです。

中学校については、毎年教育委員会で今後6年間の児童推計を取っており、令和6年までの推計を行っていますが、不足はありません。今後さらに生徒数が増えて教室の不足が見込まれる場合は、検討したいと思います。

Q 参加者

人口増加地域であるということは非常に心強いですし、こうやって意見を言える市民がたくさんいるっていうことは、間違いなくこの市はすごいと言えるのではないかと改めて感じました。

変な言い方ですが、将来、人もお金も足りなくなる中で「市民としてしなくてはいけないことはやって欲しい」ということを流山市にはきちんと行ってほしいです。この地域には、人口が減少している地域

にはない良さがあり、私たちは恵まれている環境にいると思います。子どものための課題には向き合わなくてははいけません。「自分たちはいい方向に向かっている」という気持ちでいなくてはいけないと感じます。

次に、市は子どもの教育に力を入れていると思いますが、私たちが考えなくてはいけないのは「子どもはいずれ大人になる」ということだと思います。子どもが大人になり、これまでの社会にできなかったことを引き継いでもらって、高齢化社会になっても、自分の家族は自分たちで養う、場合によっては助けることが大切です。福祉に極力頼らずに自力でやるという方向に持ってこられなかったことは、ひょっとしたら戦後の日本の大きな反省ではないかという気がしています。これは流山市にお願いすることでもあり、自分たちも動かなきゃいけないところだと思いますが、親子三代がきちんと住み続けられる街にしていくことを精一杯やらないと、これから先は生き残れないと思っています。

流山市民としてのビジョンが完成したときに、自分たちが今、手塩にかけて育てている子どもたちに、自分の地域にいてもらって、場合によっては自分たちの土地を継いでもらって、自分たちの土地を、街をそのままいい街としてさらに生かしていく。そういう人を作っていくことが街の構想として私は必要だと思います。

A 市（市長）

小学生・中学生の児童・生徒数について、文科科学省では3カ年の推計値をつくりなさいと言っていますが、流山市では想定値として6年間の予測を行っています。中学校となると令和10年代の話になりますが、現在は特に出生率が上がっており予測が難しい状況です。

今のおおたかの森小・中学校は、小学生が中学校へ上がったときに、今度は小学校の児童数が減少してきて人口のピークがずれるという前提で建設しましたが、小学校だけで教室が一杯になるという結果になりました。このため、南流山地区も10年先の数字までは予測が難しいですが、毎年、推計値と想定値を出しており、どのように変動していくか注視しながら計画したいと思っています。

全国的に、18歳の進学や就職のときと、22歳で就職するときに

市外に転居されるようです。かつての流山は市外に出て行ったまま戻ってこない街でしたが、現在は女性を中心に戻ってくる街になっています。さらに最近では、それ以上に縁もゆかりもない人たちが流山に来てくださっています。ご提案いただいたように、いったんは流山から出て、また戻ってきていただけるようなまち、自分たちが関与できて、自分たちが作れるまちを醸成していきたいと思っています。

そのためには、様々な形で皆さまからご意見やご提案をいただいて今後も市政に反映させていきたいと思っています。

Q 参加者

「母になるなら流山」といってもう十数年たっていますが、何をもって「母になるなら流山」なのですか。今の教育関係の話を聞くと、これとは乖離していると思います。

さらに思うのは、先程言ったP D C Aサイクルができていないという証拠です。しっかりやっていただきたいと思います。

次に、おおたかの森の児童館はどうしてT X(つくばエクスプレス)の高架下に建てるのですか。これも問題です。マンションは建てるけれど、肝心な子どもたち、こういうのを見直してもらいたいです。

最後に道徳教育ですが、平成30年に小学校からスタートし、令和元年の4月には中学校が導入しました。流山の道徳教育はどのような教育ですか。私が哲学で考える道徳というのは、大体7割は家庭でやるというのが本当の道徳じゃないかなと思います。朝起きたら、誰でも「おはよう」。いいことをしてもらったら「ありがとう」。悪いことをしたら「ごめんなさい」。これを家庭でまずそろえてもらいたい。小学校に入りますと、今度は集団生活になります。集団生活の中についての道徳教育というのをこれは学校で教えていていただきたい。この3点をお願いします。

A 市（教育長）

現在、指導要領に基づき道徳教育の充実に向けて授業を行っているところです。今の道徳は「考え、どうするか」というところ、つまり自分の考えを友だちと議論して、それが自分のものとして本当に言えるかというものです。道徳は「こうですよ」と教える教育ではありません。

せんので、要領に基づきこれからも推進していきたいと思います。

おおたかの森小学校地区の児童館については、お子さまの数も増えて児童館に対する要望が非常に大きくなる中、埼玉県八潮市においてT Xの高架下を使って学童クラブを問題なく運営されている事例もありましたので、T Xの高架の下を使わせていただき児童館を整備することになったものです。

「母になるなら流山」は、流山市のブランドを確立するためのポジショニングメッセージです。この目的に対して、子育て環境の充実ですとか、教育環境の充実、こういったものを引き続き図っていきたいと考えています。